

## 「新幹線における保線組織の見直しについて」に関する申し入れ 団体交渉①

### 1. 保線組織の見直しを行う根拠を明らかにすること。

回答 JR北海道、パートナー会社、他系統との連携強化を考慮し見直しを行う。

【主な議論内容】★組合 ・会社

★回答の具体的内容は何か。

・融合と連携で新たな価値創造へ取り組んでいくこと、パートナー会社と一体となって安全安定輸送を創り出している。物理的により距離が近いほうがメリットはある。

★現時点で課題があるのか。

・明確な課題は無い。より効率的な体制を考え構築した。

### 2. 青森新幹線保線技術センターと青森新幹線保線技術センター八戸派出を設置するメリットとデメリットを明らかにすること。

回答 青森は融合と連携により新たな価値を生み出していくのに適した場所であり、メリットがあると考えている。

【主な議論内容】★組合 ・会社

★適した場所とは何か。

・安全面においてパートナー会社や JR 北海道とのやり取りで有効と考える。営業面でも新たな価値を生み出せると考えている。デメリットは特にない。

★拠点職場として位置付けると、青森地区には営業統括センター、在来の保線技術センターがある。八戸地区には盛岡支社の施策で統括センターができるが八戸地区の拠点がなくなるのではないか。

・八戸地区として見れば規模は小さくなるが、青森地区で各系統が集まるメリットがある。規模が小さくなるというより、融合と連携と効率化の一環が同じ方向性であった。

### 3. 青森新幹線保線技術センターと青森新幹線保線技術センター八戸派出のグループ名、保

回答 2024年4月の時点では、青森新幹線保線技術センターのグループは、企画安全科、計画科、線路1科により構成し、青森新幹線保線技術センター八戸派出は線路2科となる予定である。保守エリアに関しては現行から変更はない予定である。箇所体制については、別紙「提案箇所体制について」の通りである。

【主な議論内容】★組合 ・会社

★現体制との変更点はなにか。

・所長以下、企画安全科、計画科の機能が青森へ移動し、名前として線路1科と線路2科が入れ替わる。

★現在員数の配置の考え方が変わらないため基本的に変わらないのか。

・その通りである。

## 「新幹線における保線組織の見直しについて」に関する申し入れ 団体交渉②

4. 恒常的に出面数より現在員数が少ない理由を明らかにすること。また、安全に業務が行える体制を構築するために現在員数を確保すること。

回答 業務に必要な要員は確保していく考えである。

【主な議論内容】★組合 ・会社

★恒常的に出面数より現在員数が少ない理由は何か。

・一時的に退職者が採用者数を上回ったためであるが、足りない状態にない。

★出面数より現在員数が少ない事態への会社の認識はどうか。

・必要な要員を確保はもちろんだが、モニタリング車導入でDXを推進し、生産性、働きがいの向上、定着率をアップするのが重要である。

★出面数の考え方が現在員数とイコールになっていない。

・生産年齢人口の減少への問題意識はある。できることを進めるため、新規採用を進める。モニタリング車で業務を変えるのも一つの手段である。

★現在の青森派出は90%が八幹保から助勤を貰って対応している。青森派出だけでは回らない状況だ。

・青森派出が除菌等を貰って対応していることは把握している。そういう意味では異動で補完できるようになると考える。

★そもそも現在員数で業務が回っていない。

・必要な要員は確保していくことに変わりはない。

5. 実施までに八戸新幹線保線技術センター全社員との個人面談を行い、本人希望を把握し尊重すること。

回答 本人希望や状況については、自己申告書に基づく個人面談で把握している。社員の運用については、任用の基準に則り運用していくこととなる。

【主な議論内容】★組合 ・会社

★提案受けて、家庭状況等踏まえ面談内容からキャリアプランの変更や希望の変更もある。どのように把握しているのか。

・11月時点で定期面談を行い、2024年4月1日以降体制変わることは丁寧に伝え、希望や居住地を聞き取りしている。

★個々人で居住地も違い通勤も異なる。コミュニケーションは取れているのか。

・現場長が取っている。

# 全5項目終了！安全で働きがいのある職場をつくり出そう！